

HYPERFLASH

大分地域における NTTとの共同実験の概要

全国各地の企業や機関が参加して行われようとしているNTTとの共同実験(第1次指定)に自治体として唯一参加している大分県からのレポートです。

大分県は今年7月に発表されたNTT実験の参加地域(参加者)に指定されました。他の参加者は原則的には新規サービスや企業内利用をメインとした単一分野のシステムが実験対象となっていますが、大分県では、逆に可能な限り汎用的ないわゆる社会基盤(Information Infrastructure)としてのマルチメディア通信網をどのようにして構築し運用していくか、ということを実験しようとしています。

実験の目的と性格

21世紀の初頭頃までには、地域の社会生活(行政、福祉、医療、教育、娯楽など)と経済活動(観光、ショッピング、貿易など)を全般的に支えるRII(Regional Information Infrastructure)と、それらが連なっているNII(National Information Infrastructure)、さらに各国のNIIが全地球的に接続されたGII(Global Information Infrastructure)が完成するものと予想されます。今回の実験は、このGIIの最小構成単位としての

RIIを地域の実情やニーズに合った(地域の置かれている情報通信環境や構築・運営体制確立のノウハウを中心に)有効な社会システムとして構築しようとする社会実験と、社会的実験であるが故に派生するであろう各種制約下においてデジタル技術に裏打ちされた高速マルチメディア通信網をどのように構築していくかという技術実証実験の二つの性格をもっています。

このように、大分での実験は全体としてはNTTが想定している実験の枠組みを越え、逆に、NTT実験をその

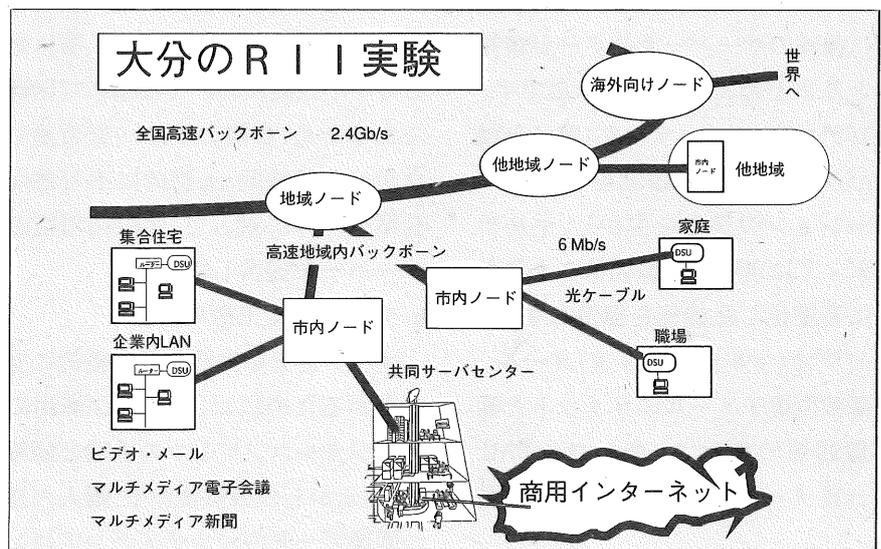
一部として含む壮大な社会実験を行なおうとしていると考えられるかも知れません。

実験サービスの内容案

(1) ハードウェア・ネットワークインフラ・サービス

a. TCP/IPコンセントの提供

実験参加の各家庭や職場に現在の電話機と同じレベルで、インターネットアドレスの付いた「TCP/IPコンセント」を提供し、常時ONの専用線の機能を発揮させる予定です。



b. 6 Mbpsの完全双方向通信を提供
実験参加の各ノードには、最大5本の6 Mbps回線から1.5Mbpsの回線までを、動画像通信を前提とした完全双方向通信用に提供します。

c. 配信機能を持つネットワークサービスを提供

FAXサービス配信機能に似た機能をネットワーク内に用意、または、デジタルのオフトーク通信のようなものを提供します。

(2) ソフトウェア・インフラ・サービス

a. インターネット型のサービス

RIIからNII、GIIへの架け橋としてインターネット型サービスを提供するとともに、個々の利用者が大きな設備投資や維持管理作業の負担から解放される仕組みを提供します。

b. マルチメディア新聞

企業や個人が誰でもオンライン上で発行でき、希望者のコンピュータに定期的に配信されるものです。当面は後述のサーバーセンターが情報をとりまとめて発行する予定です。

c. ビデオ(マルチメディア)電子会議

パソコン通信の蓄積型コミュニケーションの良さを生かし、マルチメディアによる動画像通信によりさらに高度化した機能を提供します。

d. ビデオ(マルチメディア)メール

蓄積型電子メールのメリットと動画像通信の便利さ、楽しさを併せ持ったメールサービスを提供します。

e. 課金、集金、決済機能

新ネットワークサービスの利用料の回収及びネットワーク上における商用利用の代金決済としても機能するような仕組みを提供します。

(3) 利用アプリケーション

上に述べたハードおよびソフトウェアを利用した個別の参加企業、団体、行政における利用プロジェクトを現在検討中です。具体的なノードとしては、県庁、ソフトパーク(ソフト関連24社が入居)、大分大学、大分医科大学、市内商店街、商業スポーツ施設やアパート等も含め20カ所程度が候補として検討されています。

(4) RIIサービス体:RIU(Regional Information Utility :情報市民公社)

今まで説明してきたインフラサービスは、RIIサービス体:RIUと呼ばれる事業体が行う予定です。RIUの具体的な業務は次の通りです。

a. 共同サーバーセンターの管理・運営

インターネット型サーバの維持管理は、技術者の確保も含めて、特に地方の中小企業においては極めて困難であるため、自前のサーバを希望しながらも経済的、人材的に不可能な企業や団体に対して、共同利用型のサーバーを提供します。

b. デジタル工房の提供

マルチメディア社会が本格的に立ち上がるためには、大規模な商用のデジタルコンテンツの供給と同時に、地元からの発信情報や、個人の持つ画像データのマルチメディアコン

テンツ化が必要です。これらに対応するためのレンタルスタジオや共同出力センターを提供します。

c. 教育、啓発活動

市民、企業、団体、行政等の個人や職員に対する普及、啓発活動を行う。さらに、アクセス用のクライアントソフトウェア(フリーウェア)の配布及び技術的利用研修会を実施します。

d. 従来型のネットワークとの接続サービス

これまで、大分県における情報通信基盤として実績のあるニューコアラや豊の国情報ネットワーク等からのゲートウェイの確保、及びダイヤルアップによるアクセス(ISDN接続も含む)ノードを提供します。

もう一度実験の目的は？

この大分での実験は、21世紀に出現するであろう新しいタイプのネットワーク社会(ハイパーネットワーク社会)構築の先駆となるべき性格を持っています。従って、その本質は新しい社会そのものの構築にあり、ひいては新しい社会の構成員(ハイパーネットワーク社会人)の育成にあります。それは、一つの地域だけででき得るものではなく、またわずか数年でできるものでもありません。今後このような地域が全国、世界に広がっていくに違いありません。

大分県を対象とする情報通信ネットワークの 現状と今後の展開についての調査

「国土庁および大分県より第四次全国総合開発計画の基礎整備調査委託」より

ハイパーネットワーク社会研究所では、国土庁および大分県より第四次全国総合開発計画の基礎整備調査委託を受け、大分県を対象とする情報通信ネットワークの現状と今後の展開についての調査を行いました。その一環として、大分を拠点とするパソコン通信ネットワークであるCOARAのユーザーを対象に利用実態調査を行いましたのでその概要を報告いたします。

●3割を超える女性の利用

この調査は、COARAの利用者のなかから300名を無作為抽出し、郵送で調査票を送付したもので、114名から回答がありました。

回答者の平均年齢は37.1歳、男性が62.3%、女性が34.2%でした。パソコン通信の女性利用者は、全国的には8~9%といわれているので、COARAでの回答者の中では女性の占める比率が相対的に高いといえます。職業は、会社員がもっとも多く、公務員がこれに続きました。地域的には、大分県内が62.3%、県外が34.2%で、一般の地域ネットワークに比べると、COARAは県外会員の比率が高いといわれていましたが、それを裏付けています。

利用頻度については、回答者の過半数が1日1回以上という高率を示し、反対に不定期あるいはまったく利用していないという人はゼロでした。コンピュータ・ネットワークの利用が日常化している人が出現していることを表しています。

他のネットワークIDの保有としては、過半数がNIFTY-Serveを、34%がPC-VANのIDをもち、商用2大ネットワークを併用している人が相当多いことが明らかになりました。

●他地域や海外との交流に高い感心 COARAでは1993年から「NN会議

といて、札幌、仙台、富山、名古屋、広島島の5都市の地域パソコン通信ネットワークとの間で交流会議を設置し、パソコン通信による地域間交流を活発に推進しています。こうしたネットワークを利用しての他地域との交流についての利用者側の意識をたずねたのに対して、61%という高率で興味をもっていることが示されました。地域ネットワークを利用している、自分の生活している地域以外の、他の地域とオンラインで交流できることに意義を見いだす利用者が多いことがわかります。

一方、海外との交流も、ロサンジェルス郊外のサンタモニカ市が運営しているPEN(Public Electronic Network)との間で、やはり電子会議によるオンライン交流が続けられています。これに対しては、言語の問題があるが、30%が英語などでも積極的に交流したいという意識を示し、37%が日本語による交流を希望し、合わせて7割近い人々が海外との交流を希望するという、国内の地域間交流よりも若干だが高い結果となったのが注目されます。

●ネットワーク利用に満足、新しいサービスへの期待も

地域ネットワーク利用の現状での満足度については、「満足」と回答したのが21%、「普通」が58%に対して、「不

満」が10%弱と、可もなく不可もない結果となりました。

今後普及が期待されているマルチメディアネットワークに対しては、過半数を超える61%の人が積極的な姿勢をみせ、地域ネットワークの利用者も新しいネットワークサービスへの期待が高いことが示されました。

自由回答の設問ではパソコン通信の現状について様々な要望がよせられました。とくに多かったのがユーザーインターフェースの向上と利用料金の点でした。慣れている利用者でも利用の際にとまどうことがあったり、人に教えるときに説明が大変だという点など、もっと誰でも利用しやすくできるような仕組みを今後取り入れていくべきだという意見が多く見られました。

●課題は通信料金

利用料金の点は、COARAの利用のものよりもオプションで使用可能な商用データベースの利用料金が個人負担するには高額な点、より多く寄せられたのはNTTの通信料金で、パソコン通信の場合は接続時間が長くなることから、全般に通話料金が高くなる傾向がある点に不満が集中していました。(文責：藤野幸嗣)

本報告書は若干数余部があります。ご興味のある方には送料実費負担でお送りしますので、当研究所までご連絡ください。

■ ブックレビュー

『電子の国COARA』

尾野 徹著

エーアイ出版, 2300円

1994年5月



本書は、大分のパソコン通信ネットCOARAの事務局長である尾野徹さんが、情報化によって東京への一極集中に対抗すべく有志とともにCOARAを立ち上げ、それを支える人々といっしょに、喜び、悩み、もがきながら日本を代表する市民主導の地域コミュニケーション・ネットワークへと育ててきた過程を、人々との関わりと尾野さん自身の思いを通じて語った現在進行形の実践録である。

これまでにも、私は尾野さんからCOARAの話聞く機会は多く、どのような運営がなされ、どのように利用されているかは知っているつもりであった。しかし、そうした事柄の背景で、人々が何を考え何を悩んでいたかということは、今回の本のなかではじめて知ること多かつた。それを率直に公開して書くのは難しいものであるが、この本では、そうしたプロセスを丹念に、しかも尾野さん自身の気持ちを率直に描いてくれた。

その運営にからむ文脈的なプロセス情報をも細大もらさず伝え共有しようというところに、COARAならではのネットワーキングの姿勢が現れ

ている。COARAが開設当初の試行錯誤のなかで、ワン・ウェイの情報提供より、コミュニケーション重視の運営に向かったというのは、まさにネットワーク・コミュニティにおいてプロセスの共有が大切なことを物語っているのだろう。

地域情報化のプロジェクトが各地で苦戦するなかで、数少ない成功事例として大分のCOARAを訪れる人は多い。しかし、地域のパソコン通信ネットをつくってみたものの、それだけではうまく行かないという例も多い。それは、森を見て木を見ずのたのように、COARAの表面的な事実だけでは伝えきれない大事なものがあつたからである。やはりネットワークを支えているのは一人ひとりの人間である。この本には、いかに多くの人との出会いがあり、多くの人々との熱い思いの交換と共有がネットワークを育ててきたかが示されている。ネットワークをつくってみようと思う人、運営している人、参加している人、それ

ぞれに知恵とエネルギーを与えてくれる本である。

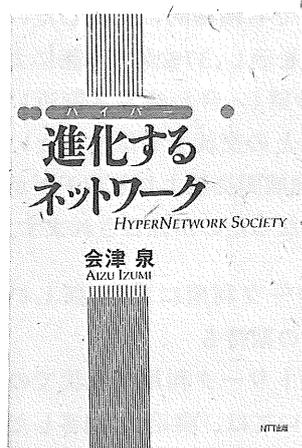
本書の最後には、現在進行中のハイパーネットワークによる市民主導の地域情報インフラ整備構想が紹介されている。COARAが出来た当初、情報提供を県外からも見に来てくれたことに一喜一憂したことが紹介されている。しかしそれだけでは一方的で面白くないという反省から、コミュニケーションを中心とした利用へと展開することで、今日のCOARAへと成長してきたわけである。この経験を生かして、ハイパーネットワーク型の地域情報インフラ構想のなかでは、市民自身のハイパーコミュニケーションをどう咲かせてくれるのだろうか。市民主導の地域ネットづくりの大切さを、論ではなく実践で示してくれたCOARAのつぎのハイパーネット実践録が待ち遠しいのは私だけではなからう。(杉井鏡生/インフォメーション・コーディネータ)

『進化するネットワーク』

会津 泉著

NTT出版, 2400円

1994年7月



ハイパーネットワーク社会研究所の関係者が続々と著書を出版し、それこそ読み切れないほどの分量に達している。本研究所の関係者の生産性が高いということはもちろんのことだが、ハイパーネットワーク社会研究所が取り組んでいるテーマが、緊急かつ重要なテーマであるということの証左でもある。社会的要請が高いのだ。

こういった膨大な著書の一つの区切りとなる本が出版された。本研究所の研究企画部長である会津泉氏の『進化する(ハイパー)ネットワーク』は、研究所と同じ名前をつけたことから分かるように、ハイパーネットワーク社会研究所のマニフェストであり、いってみれば「ハイパーネットワーク

宣言」である。

会津氏の関心は、人工生命から仮想現実まで多様にわたっているが、彼が最も力を注いでいるのが、インターネットである。ハイパーネットワーク社会の建設の、最もリアリティーをもった手段がインターネットであると筆者は、繰り返し説いている。

人は見知らぬ文化や世界を初めて見ると、だれかにどうしても伝えたいとか、新鮮な驚きを書き残しておきたという気持ちから、できるだけそれを精緻に書き残そうとするが、本書にも同じことが言える。インターネットというサイバースペースに遭遇したときの経験を、なんとか伝えたいという熱い気持ちがはっきりと伝わってきて、『The Internet Companion』に通ずる印象を持った。

会津氏は、『The Internet Companion』の著者と同様に、インターネットのエバンジェリストたらんとしている。また立派にエバンジェリストとしての

資格は十分で、インターネットに関することを平明に記述する筆力と、またそうしたいという情熱を持っている。本書は、インターネットの概説書や教科書としての意味あいも持っているが、エバンジェリストの手になるもの故に、やはり革命宣言といったほうがいいかもしれない。会津氏自身も、そのことを強く意識しているようだ。

メディア・テクノロジーに関する議論の多くは、自らは実践せずに、読んだり見たりしたものやデータから作り上げたイメージだけで書かれたものが多い。本書の中で指摘されているように、ネットワークという異境は触れてみないとわからないものである。メディアが認識を作るものである以上、触れない限り、その認識を持つことができない。会津氏は、自らの経験に立脚して、それらがドキュメントとして散りばめられているため、説得力を持っている。

本書に通底しているデジタル革命

の最も重要なインパクトの一つは、情報にかかわることがすべて、情報を生み出す人に限りなく近づいていくことである。会津氏は、この本の完全版下を作った。グラフィックス・アーティストが同様の試みをしたことは聞いたことがあるが、一般の著者が、こういったことを行ったことを知らない。小さな試みであったかもしれないが、歴史的意義を持つと思う。会津氏は次には、きっとサイバーパブリッシングするにちがいない。

ハイパーネットワーク社会研究所の人は、自分のできる範囲の中で可能性を発見しては少しでも前進しようとする。この本にも、そういった気風が表れている。本書は、ゴアが好きなガンディの言葉を体現したものである。「われわれは、この世で見たいと思う変化そのものでなければならぬ」(浜野保樹/ハイパーネットワーク社会研究所主査・放送教育開発センター助教授)

公文俊平所長の新著 内容紹介

『アメリカの情報革命』

NECクリエイティブ

11月7日発売

前著「情報文明論」の実践編として、現在のアメリカの情報革命を明確に分析する。インターネット、NIIなど米国マルチメディア関連の動向を丹念に収集し、新鮮で大胆な解釈の提示で、話題のアメリカ情報革命のゆくえを予測する。なお同書の内容はインターネットでも提供されている。

<<http://www.glocom.ac.jp/>>

第一章：反省と曙光

フォレスターの悲痛な言葉

ギルダールの情報革命ビジョン

ゴアの「情報ハイウェー」構想

第二章：加速する情報革命の軌跡

合意と発展の年1992年

“デジタル世界”の到来

全国情報インフラ (NII) の必要

突破産業としてのマルチメディア

インターネットの変質と爆発

新ゴールドラッシュの年1993年

最初の衝撃

インターネット第二回世界大会

NII 構築行動計画の基調

NII 議論の盛り上がり協力関係

の展開の試み

業界の先陣争いと NII の三つのモ

デルの間の競争

地域でのさまざまな試み

その他の例

ゴア副大統領の NII 構築五原則

情報革命の方向が定まった1994年

一時的な蹉跌と齟齬

見えてきた NII の新しい進路

NII から GII へ

ゴアの GII ドクトリン

もう一つの可能性：デジタル無

線技術の新展開

第三章：情報革命の二つの側面

ハベルとビルト

第三次産業革命としての情報革命

第三次社会革命としての情報革命

第四章：21世紀の世界秩序

冷戦後の世界秩序

新世界秩序と日本

ハイパー研 活動報告

【これまでの活動報告】

●地域実験開始に向けての準備進む

94年度は、大分県におけるNTTとの地域実験にどのように取り組んでいくかに関する打ち合せなどを重ねてきました。その概要については、このニューズレターの最初にお伝えしたとおりです。

また、7月22日・23日、および、11月4日・5日に、本格的な地域実験の開始を前にした、地元大分での実践的なセミナーを開催しました。このセミナーは今後も定期的に行っていく予定です。

●就任:公文俊平所長

公文所長が、高度情報通信社会推進

本部有識者会議委員に就任しました。

●新規委託事業

・通商産業省委託調査「平成6年度マルチメディアネットワークの利用方策に関する調査」

・大分県地域経済情報センター委託調査

・次世代情報通信ネットワークモデル構想に関する調査

●報告書

・国土庁・大分県委託調査

「第四次全国総合開発計画推進整備調査 大分県におけるパソコン等を利用した交流ネットワークの拡充を通じた地域振興に関する調査報告書」

・通商産業省委託調査

「平成5年度 マルチメディアネットワークの利用方策に関する調査報告書」

・自主事業

「デジタル・ワールド・バーチャル・ワールド 8月ワークショップ報告書」

「デジタル・ワールド・バーチャル・ワールド12月ワークショップ報告書」

「グローバル・ワールド・ワーク ショップ報告書」

「ハイパーネットワーク別府湾会議 '94資料集」

「ハイパーネットワーク別府湾会議 '94報告書」

主なアウトプット

◆著書

ハイパーネットワーク社会研究所の活動に直接かかわる著書が、以下のように刊行されました。よろしければぜひお求めください。

・公文俊平著『アメリカの情報革命』 NECクリエイティブより11月7日発売

・浜野保樹監訳『情報スーパーハイウェイ』アルバート・ゴア・ジュニア 他 (1994年10月10日、電通、2700円)

・ハイパーネットワーク研究会著「よくわかるインターネット」、1994年12月15日、エーアイ出版、2000円

◆推薦の参考書籍

●日本の情報インフラの今後を考える上で参考になる書籍

・「21世紀の知的社会への改革」

郵政省監修、コンピュータエージ社 郵政大臣の諮問機関である電気通信審議会の答申全文と解説。

・「高度情報化プログラム」

通商産業省機械情報産業局編、コンピュータエージ社

通商産業省の情報基盤整備プランの全文と解説。

●インターネットを利用する際に役にたつ参考書籍／雑誌

・「インターネットユーザズガイド」エド・クロー、インターナショナル・トムソン・パブリッシング・ジャパン

・「インターネット漂流記」吉田茂樹・森秀和・杉岡隆司、オーム社

・「初心者のためのインターネット」B・P・キーホー、トッパン

・「ハッピーネットワーキング 新入生のためのインターネット入門」山本和彦、アスキー

・「インターネットクイックリファレンス」ポール・ホフマン、ジャストシステム

・「インターネット情報生活入門」グループまたたび 技術評論社

・「インターネット参加の手引き 1994

年度版」WIDE Project編、共立出版社

・「インターネットマガジン」インプレス

・「日本インターネット協会ニュース」インプレス

●インターネットの全容を理解するのに役にたつ参考書籍

・「Internetビギナーズガイド」トレスリー・ラクウェイ、トッパン

・「インターネット商用化に向けて」横河コンピュータ、トッパン

・「インターネットフロンティア」知野 明、エーアイ出版

・「インターネットのことがわかる本」松島秀行、日本実業出版社

●より広い視点からインターネットをとらえたもの

・「第三の開国 インターネットの衝撃」神沼二真、紀伊国屋書店

・「情報スーパーハイウェイの衝撃」ニコラス・バラン、日本経済新聞社



ニューCOARA

7月より WWW サービス開始

『COARA WWWダイアリー』のご紹介

ニューCOARAは、日常生活に電子ネットワークを取り入れることで、日々の暮らしをより楽しくイキイキとしたものにしようと、10年にわたり積極的に活動を続けています。その基本姿勢は、地方にいても自ら主体的に情報を発信できることによって、ひとりひとりが主人公になれるのだというところにあります。そして94月に、さらにコアラが発展しました。今や世界の標準になろうとしているコンピュータネットワーク網「インターネット」をいち早く市民生活に取り入れることによって、『COARA WWWダイアリー』のサービスが開始されました。

●さらに広がったコミュニケーション利用

ニューCOARAは、ネットワークの市民利用を前提にしており、より多くの人に親しみやすいインターフェースを実現して、広く普及することが常に求められています。今や4千万人という利用者が存在し、世界のネットワークの標準になろうとしているインターネットは、日本でも広く一般の人に普及することが予測されます。このインターネットに通常の電話回線によるダイヤルアップでIP接続を提供することによって、ニューCOARAは、従来のパソコン通信を超えたマルチメディア・

ネットワークを利用できるようになりました。

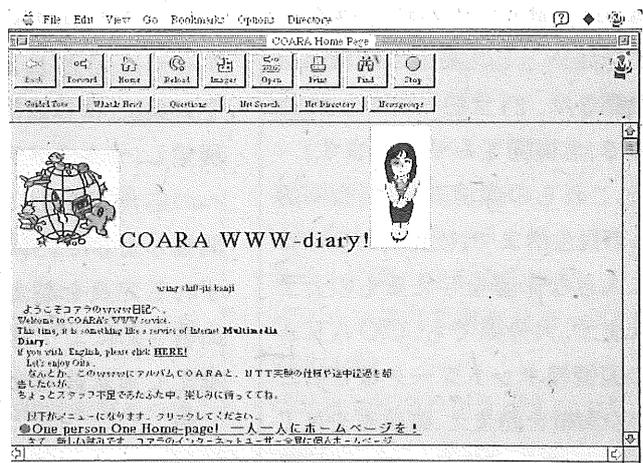
WWWはインターネットのなかでも爆発的に利用されているサービスです。今まではその多くが学術研究あるいは企業利用でした。しかし、『COARA WWWダイアリー』は、インターネットのWWWサービスを市民利用にどう活かせるかということをも前提に作られています。このホームページには、会員ひとりひとりの発想から生まれた画像を含めたメッセージが、個人の日記というスタイルで掲載されています。また、世界を相手に発信できるので、英語版のホームページも用意してあります。こうしてネットワークを介して、自分のメッセージを自由にアップできるシステムができました。これによって、自由でユニークな発想で各自のホームページが作られるようになりました。この『COARA WWWダイアリー』は、システムができたときが完成ではなくて、みんなが楽しく工夫をこらしてコミュニケーションしながら使える可能

性が広がり、今後さらに大きく発展していくものと言えます。

●より楽しめるようにシステムもアップ!オフラインの勉強会も活発!

『COARA WWWダイアリー』では、クリック操作で「何月何日付けの日記」が読めるようになっていました。当初は各自が、WWWサーバーが設置されている所までデジタルデータを持参してホームページに組み込んでもらうという段取りでした。しかし、それでは各自が思いどおりにホームページを作るには窮屈さを感じるということで、システムの改善が検討されました。

そこで考えられた新システムは、LANで繋がっているもう一つのホストに各自のホームページ用のスペースを用意し、そこに自由にデー



COARA WWWダイアリーホームページ

2. セミナーでは何に興味を持ちましたか(重複回答あり)

- ・ファーストクラスの実習(12名)
- ・インターネットのデモ(11名)
- ・会津さんの話「最新の情報通信事情」(5名)
- ・NTT実験の話(2名)

3. セミナーの進め方はいかがでしたか

- ・よかった(14名)
少人数でのグループ実習はよかった
話が大変おもしろかった
- ・普通(9名)
もう少しやさしく説明してもらいたかった
- ・よくなかった(1名)
インターネットとファーストクラスとのつながりがわかりにくかった

4. その他の意見

- ・インターネットの実習をしたい(4名)
- ・今後とも今回のようなセミナーを続けてほしい(2名)
- ・もっと多くの人にパソコン通信の楽しさを広めていただきたい(1名)
- ・1日も早く家庭への双方向通信の取り組みに期待する(1名)

今回のセミナーは、大分県において平成7年度から実施されるNTT地域実験等を見越して、県庁職員、企業関係者、市民の皆さんに最新の情報通信の現状と動向についての講義と意見交換、さらには実際にパソコンを利用したマルチメディア通信実習の体験を通して、情報通信の世界を理解していただき、地域実験へ向けての意識づけを行うことを目的としていました。

セミナーの結果としては、アンケート集計結果のとおり、講義、実習ともに大部分の参加者を満足させる

のに充分であったと思います。この意味においては、今回のセミナーは所期の目的を達することができたといえます。

一方で、セミナーのテーマとして、現在世界的な規模のコンピュータのネットワークとして普及しているインターネットに関する内容の講義、実習を望む意見も出されており、第2回ハイパーセミナーは「インターネット」をメインテーマにして開催する予定です。

大分県における情報化は、今後マルチメディアの時代に向けてさらに新しい展開を迎えていくことになります。企業関係者、市民の皆さんが情報通信の動向を正しく理解し、ユーザーの側にたった利用方法を見つけることができる参考となるように、今後ともハイパーセミナーを継続して開催していきたいと思えます。

東京事務所

●来訪/インターネット見学者
(敬称略) (94/6~10月)

1994年

会川晴之(毎日新聞社)、青柳貴文(北海道新聞社)、巖悟(内閣官房内閣情報調査室)、緒方俊則(国土庁地方振興局)、桂木健次(富山大学)、黒田和光(社会経済生産性本部)、酒井裕司(北海道地域ネットワーク協議会)、長久保洋二(参議院第三特別調査室)、箱山武(電算)、藤浦剛(WWB/JAPAN)、三塩賢治(日本プロジェクト産業協議会)、矢野直明(朝日新聞社)、山下冴子(ジョン万次郎ホイットフィールド記念国際草の根交流センター)、吉川忠良(日本サテライトオフィス協会)、吉村匠(北海道新聞社)

●インターネット出張デモ

(94/6~10月)

1994年

荒川真三(仙台ソフトウェアセンター)、守屋健次(仙台ソフトウェアセンター)、丸山浩司(仙台市財政局長)、阿部達(仙台市経済局長)、蔵田博之(仙台市企画局長)

●公文俊平:講演一覧

(94/6~8月)

1994年

6月13日 「郵政国際協会主催情報基盤シンポジウム」GIIについてのパネルを司会

18日 「第二回関東地域ネットワーク研究会基調講演」“これからの地域ネットワーク”

21日 衆議院、情報化を考える議員グループで講演“情報ハイウエーについて”

7月12日 「地域経済統合と東アジアに関する地球産業文化研究所シンポジウム基調講演」

“アジアの産業化と情報革命”

19日 四国通産局主催地域情報化懇談会「地域の活性化と情報化」

28日 インターロップ94「情報革命の意義」

8月25日 全労済「21世紀の社会システム」

31日 私情協「インターネットへのいざない」

9月9日 電通フォーラムで基調講演
13日 情報処理学会シンポジウムで招待講演

28日 ニッポン放送主催 デジタルコンベンションにて月尾先生と対談

10月4日 金星社(ゴールドスタージャパン)で講演「GIIの構築の意義と日本の課題」

10月5日 セコム・新松会講演

19日 国際日本文化研究センター主

催、日本研究・京都會議で講演

24日 国際マルチメディアフォーラム
(財団法人日本情報処理開発協会主催、
通産省後援)でパネルディスカッション「マルチメディアの目指すもの」

26日 「企業革新研究会」講演(日本能率研究会)

●公文俊平:新聞雑誌寄稿等

(94/6~8月)

1994年

6月

【新聞:オピニオン】「正念場の情報インフラ構築」正論『産経新聞』940620

【新聞:書評】中島洋「公文俊平『情報文明論』:「智」の時代への展望を試みた大作」日本経済新聞 940619

【雑誌:エッセー】Jonathan Friedland
“Learning to Think”Far Eastern Economic Review,p50, 940630

【論文】「大平正芳の時代認識」『大平正芳政治的遺産』pp.51-90,財団法人 大平正芳記念財団

7月

【エッセー】「地域におけるハイパーネットワーク社会をめざして」ハイパーネットワーク社会研究所ニューズレター第2号, 940710

【書評】中島洋「文明論目立つマルチメディア:ブームの域脱し虚像の議論卒業」日本経済新聞 940724

9月

【インタビュー】“「マルチメディア」を怖れるなかれ”『現代』,講談社, pp.96-97

【対談】マーティン・グリーンバーガー、公文俊平「日本とアメリカは同じ情報社会へ別の道を歩んでいる」Human Studies #13, 電通総研,pp.4-13, 940900

【エッセー】「情報革命と新マルチメディア産業」,『イノベーション&I-Oテクニク』第5巻3号, 環太平洋産業連関分析学会発行 9409

●会津泉:講演一覧

(94/6~10月)

1994年

7月18日 大分県庁セミナー

20日 山城経営研究所 第7回基本研究会講演

22日 ハイパーネットワーク社会研究所 企業向セミナー

23日 ハイパーネットワーク社会研究所 一般セミナー

25日 東京クリエイティブ経営研究会「マルチメディアと産業社会」

8月24日 NEC総研「インターネットの現状と今後」

9月8日 データベースフォーラム講演「進化するネットワーク~パソコン通信・マルチメディア・インターネット~」

12日 (株)経済界『技術情報倶楽部』講演「爆発するインターネット」

14日 (株)ミスミ社内セミナー『人とエンジニアリング』講演

16日 (社)総合研究フォーラム“The Quarter”講演「進化するネットワーク」

21日 東急エージェンシー講演

22日 TC研究会講演

28日 デジタル・コンバージェンス94講演

29日 浩志会講演

10月11日 NTT/社内研修講演

13日 日本事務機械工業会マルチメディア研究会講演「米国におけるインターネットの現状と今後の動向」

14日 慶応大学大学院講義「マルチメディア文化論」

15日 GLOCOMオープン・ハウス記念シンポジウム パネルディスカッション

21日 全国ニューメディア祭'94 浜松
パネルディスカッション「どう変わる?メディアボーダレス時代を迎えたわが国の放送と通信」

24日 日経ビジネススクール講演「マ

ルチメディア・ネットワークによる地域の活性化~世界の地域ネットワークの動向」

25日 北陸先端科学技術 大学院大学講演

●会津泉:新聞雑誌等寄稿

(94/6~10月)

1994年

6月

【書評】「林紘一郎・田川義博著『ユニバーサル・サービス』」『図書新聞』

【論文】「インターネット~世界最大の自律分散ネットワーク」『月刊自治研』7月号

7月

【新刊】「進化するネットワーク」NTT出版

【インタビュー】「特集・デザインへ一言~会津泉」『AXIS』52号

【座談会】「マルチメディア技術の可能性と課題」『日経産業新聞』940728

9月

【論文】「マルチメディア革命の本質~ネットワーク経済とインターネット」『ESP』10月号

【インタビュー】「インターネットに見るネットワーク社会のポテンシャル」『ハーバード・ビジネス』8・9月号

【論文】「日本の情報通信の行方を考える~自ら利用し、開かれた議論を」『情報通信ジャーナリズム研究会』9月会報 10月

【インタビュー】「進化するネットワーク」『経済広報』10月号

【論文】「インターネットの意味するもの」『行政とADP』11月号

●藤野幸嗣:雑誌寄稿

(94/6~10月)

1994年

「日経ゆーたーん 8月号 マルチメディアで地方は元気になる?」

原稿募集

「Hyper Flash」では、皆さんの原稿を募集しています。皆さんの身近なネットワークや地域コミュニティに関する話題、日ごろハイパーネットワークについて考えていること、ハイパー研について言いたいことなど、どしどしハイパー研宛てにお寄せください。

電子メールでお願いできれば幸いです。

e-mail:hyper@glocom.ac.jp

お問い合わせは

(財)ハイパーネットワーク社会研究所

大分本部

〒870 大分県大分市東春日町51番8

大分ソフィアプラザビル4階

TEL:0975-37-8180 FAX:0975-37-8820

東京事務所

〒100 東京都千代田区霞が関3-3-1 尚友会館2階

TEL:03-3506-8180 FAX:03-3506-8181

e-mail:hyper@glocom.ac.jp

◆財団法人ハイパーネットワーク社会研究所

■役員

理事長 渡辺文夫 (東京海上火災保険(株)相談役)
専務理事 堤新二郎 (大分県副知事)
所長 公文俊平 (国際大学教授)
副所長 月尾嘉男 (東京大学教授)
理事 鈴木祥弘 (日本電気(株)専務取締役) (予定)
高梨裕文 ((株)富士通研究所取締役副社長)
三原種昭 (日本電信電話(株)取締役九州支社長)
大橋 純 (NTTデータ通信(株)経営企画部長)
公文俊平 (国際大学教授)
根橋正人 ((財)ニューメディア開発協会理事長)
園山重道 ((財)移動無線センター会長)
月尾嘉男 (東京大学教授)
浜野保樹 (放送教育開発センター助教授)
監事 荒木信正 ((株)大分銀行常務取締役)
植木哲哉 ((株)豊和銀行常務取締役)

■評議員

青柳武彦 (日本テレマティーク(株)代表取締役社長)
今井賢一 (スタンフォード日本センター 研究所長)
宇津宮孝一 (大分大学工学部 教授)
小野準一 (日本放送協会 技術局技術主幹)
釜江尚彦 (ヒューレットパッカード日本研究所取締役 情報研究所長)
北矢行男 (多摩大学教授)
清原和也 (九州電力(株) 取締役情報通信部長)
園田善一 (日本アイ・ビー・エム(株) 常務取締役)
高原友生 ((株)シー・アール・シー総合研究所 代表取締役会長)
和波衛身 (アップルコンピュータ(株) 取締役統括本部長) (予定)
田中 譲 (北海道大学工学部 教授)
永次 廣 ((株)安川電機 取締役企画部長)
西 和彦 ((株)アスキー 代表取締役社長)
八戸信昭 (東京都立科学技術大学 教授)
松尾三郎 ((株)エス・シー・シー 代表取締役会長)
三浦一郎 ((株)東芝 常務取締役営業本部副本部長)
村井 純 (慶應義塾大学環境情報学部 助教授)
渡部国男 (キヤノン(株) 研究開発本部副本部長)

■賛助会員

(株)アスキー	(株)大林組	三協技研(株)	(株)東芝	(株)豊和銀行
アップルコンピュータ(株)	鬼塚電気工事(株)	三和酒類(株)	(株)トキハ	三井不動産建設(株)
(株)インテック	鹿島建設(株)	(株)CRC総合研究所	日産自動車(株)	(株)三菱総合研究所
(株)内田洋行	キヤノン(株)	清水建設(株)	日本アイ・ビー・エム(株)	(株)安川電機
梅林建設(株)	(株)熊谷組	住友電気工業(株)	日本国土開発(株)	(株)リコー
(株)SCC	九州電力(株)	(株)第一勧銀総合研究所	日本テレコム(株)	若築建設(株)
(株)NHKエンタープライズ	コクヨ(株)	(株)ダイコー・グループ本部	日本放送協会	
(株)大分銀行	五洋建設(株)	(株)中電工	富士ゼロックス(株)	
大分ケーブルテレビ放送(株)	(株)佐藤組	東京海上火災保険(株)	別府市役所	
大分航空ターミナル(株)				

(五十音順)

HYPERFLASH 第3号 1994年12月1日発行 (季刊)

発行人: 財団法人ハイパーネットワーク社会研究所

編集責任: 会津 泉

編集: 山本葉子

大分本部 〒870 大分県大分市東春日町51番8

大分ソフィアプラザビル4階

TEL:0975-37-8180

FAX:0975-37-8820

東京事務所 〒100 東京都千代田区霞が関3-3-1

尚友会館2階

TEL:03-3506-8180

FAX:03-3506-8181

e-mail:hyper@glocom.ac.jp